

令和7年度 学校関係者評価及び改善策

(中間・最終)

昭和北中学校区 校番25 学校名 昭和北小学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	A	・学校教育目標から中期経営目標を踏まえ、中期・短期と明確な設定がなされている。 ・ここ数年は気温が高く、外遊びや体育の授業の制限があり運動不足の児童も多くなるため、運動のやり方の工夫が必要である。 ・基礎・基本的な学力は自己肯定感にもつながり、ひいては社会のためになる。家庭の協力は大きい。 ・確かな学力についての中期経営目標に対して短期経営目標が漠然としていて具体性に欠ける。焦点を絞った方がよい。 ・生徒指導の三機能を生かした授業の具体的なより一層の向上に向けた実践に期待する。 ・目標設定は少し大まかすぎて分かりにくいところもあるが、項目別によく決められている。
目標達成のための方策の適切さ	A	・課題を踏まえた方策になっている。 ・学校だけでなく家庭学習でも「文字を書く」「文章を理解する」ことができるような学習内容の取組も必要。 ・学力差が大きく基礎的学力の定着しない児童が過半数いる現状に愕然とした。 ・学力向上のための授業改善の方策としてタブレット活用をあげているが、タブレット活用は学習意欲の向上や情報活用能力の育成には効果的だと思うが、課題である基礎的学力の定着への方策としては、ほかの視点もほかの視点も大切ではないか。(例:個に応じた指導の工夫等)
自己評価の結果の分析の適切さ	A	・適切に分析されている。 ・笑顔貯金アンケートは良い取組。 ・目標をかかげ、それに向け方策を立て結果を数値化することで達成感がわかりやすい。 ・指標と目標値に対して達成値・達成度であり、適切だと思います。 ・不登校に至った原因を調べることはもとより当該児童の家庭教育・環境面での状況等も調査し、できるだけ早く復学に勤めることが肝要なのではないかと感じた。 ・個性を生かしながらすくいあげ全体のレベルアップを。
今後の改善策(案)の適切さ	A	・働き方改革は、社会課題。生産性向上と教育の質の向上の両輪課題解決を期待する。 ・SSRのように学校に登校しやすい環境づくりを今後も続けてほしい。 ・一人一人の児童と向き合う姿勢が素晴らしい。家庭でもそういう時間を設けてほしい。 ・評価Dの部分について不登校傾向の児童個々への対応策が具体的に示されていた。(子ども真ん中会議・カウンセリング等) ・確かな学力について学力的に課題の大きい児童への対応策が出てなかった。 ・持続可能な教育環境の整備につきましても早期に北小独自の協働体制による無理、無駄を排除した大切な児童に寄り添う時間の確保策を構築されることを期待する。
その他		・机のまわりや教室のロッカー等整理整頓されており、素晴らしい。 ・先生方の夏休み、本当に良いことだと思った。児童への声掛けを今以上に心してやっていきたい。誉め言葉も忘れずに言いたい。子どもたちは家庭、学校、地域で育てるものだ改めて実感した。 ・目標達成に向けて、校長先生を中心に教師が協働して組織として働き、成果を上げている。 ・学期末テストで国語科約4割、算数科では半数の児童が80%に達していないことが気になった。 ・不登校の増加傾向は、不安ながらSSR等改善に期待。学校と家庭の地道な連携が大切。 ・業務改善はできている。

学校関係者評価を受けての今後の改善策	・基礎的な学力向上のためにも、ICTの活用だけでなく、書く活動も大切にしていきたい。また、児童の主体的な学びを促すような導入を工夫し、授業改善を行っていく。低学力の児童への学力補充についても考えていく。また、体力・運動能力向上に向けては、個々の課題に応じて取り組むことも考えていきたい。さらに、教師の体育科の授業力向上を推進させる取組を行ってきたい。 ・目標値を達成した項目においても、具体的に何に取り組むのかを明確にし、全職員で協働して取り組めるようにしていきたい。不登校対策としては、SSRの活用、笑顔貯金など学校での居場所を増やし、学校だけでなく、家庭・地域とも連携していく。 ・学校全体としては、以前よりも働き方改革の意識がもてるようになってきている。どの教職員も同じ意識をもって取り組んでいけるように働き掛けるとともに、日課や会議、行事等の精選を図れるようにしていく。
--------------------	---